

RCC スクール

# 「#湯崎知事と語ってみた」 in 福山

とき 令和4年10月6日（木）

ところ 福山城月見櫓

## 目次頁

開会 .....	2
自己紹介 .....	2
ひろしまビジョン説明 .....	4
意見交換 .....	5
話題提供（N高等学校・総合技術高等学校・福山商業高等学校・STU48） .....	7
閉会 .....	17

## 開会

司 会： それではお待ちせしました、「RCC スクール湯崎知事と語ってみた」supported by 田宮 パーツ in 福山開会です。のりのいい皆さんでありがとうございます。県内各地回ってまいりました、今回は最終、第5回ということになりました。司会を務めさせていただきます、RCCアナウンサーの坂上俊次です。よろしくお願いいたします。

この取組は湯崎知事と県内の高校生が語り合っ、広島のとこれからの未来、高校生の考えていること意見交換していこうというものです。

## 自己紹介

司 会： まずは自己紹介といきたいのですが、湯崎知事、第5回ということになりました。改めてどうですか、県内の高校生と触れ合っ刺激とか感じるこっどうでしょう。

湯崎知事： やはり高校生とお話しするのは楽しいですよ。僕も高校生と毎年、毎年、歳が離れていくんですよ。それでだんだん分からなくなってくるんです。こういう機会に、みんなの考えとか聞かせてもらうのはすごくうれしいです。今日は最終回と言われました？

司 会： 第5回ということ。

湯崎知事： 第5回、最終回でしたっけ。

司 会： そうなんです。

湯崎知事： もったいないですね。

司 会： まだまだ続けていきますか。

湯崎知事： もう終わるんですか。何か全県的にそんなにまだ回っていないし。

司 会： そうですね。今日の出来をみて、また今後のこも最終的に考えていきたいと思っます。

湯崎知事： みんなの肩に懸かっているということですね。

司 会： そうです。福山商業の岡さんに懸かっているということ。いいリアクションですね。よろしくお願いいたしますと思っます。

それではメンバーの自己紹介にいきたいのですが、今日はまず福山商業の岡さんから、お名前自己紹介お願いします。

岡： 広島県立福山商業高等学校からまいりました、三年生の岡成美と申します。本日はよろしくお願いいたします。

司 会： プロのバスガイドさんでおられますか。

岡： もしかしたら前世にやっていたかもしれないです。今はやっていないですね。

司 会： 岡さんしゃべりもうまいのですが、特技何か。

岡： 私は特技にタイピングと言わせていただいております。

司 会： どれぐらい。

岡： そうですね、10分間に1,000字程度打てるのですが、もうこんな感じ。

司 会： こんな感じ、大したものですね。

岡： ありがとうございます。部活動で頑張っ鍛えました。

司 会： 分かりました。書き言葉よりしゃべりの方が期待できそうです。よろしくお願いいたします。

岡： ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

司 会： そしてお隣、自己紹介お願いします。

愛 甲： 広島県立福山商業高等学校から来ました、愛甲凛と申します。特技はお絵かきです。

司 会： お絵かき。実際、何か作品があったら見せていただくとか、いただけたりしませんでしょうか。

愛 甲： 実は今日は書いて来たんです。湯崎知事の似顔絵を書かせていただきました。

司 会： 見せていただいてもよろしいですか。こちらですね。知事御本人にお願いします。

湯崎知事： ありがとう。

司 会： ありがとうございます。知事、御覧になっていかがですか。

湯崎知事： これは優しい方の似顔絵ですね。似顔絵もいろいろとあるじゃないですか。厳しい似顔絵と優しい似顔絵と。これは優しい似顔絵ですね。

司 会： これは優しい。比較的、世の中落ち着いているときの知事の。

湯崎知事： 自分が優しいかどうかじゃなくて、似顔絵として優しいかどうかという意味では、プラスに書いてもらっている。

司 会： 非常にうれしい方ですね。

湯崎知事： うれしい方。これはちゃんと緑のネクタイで。

愛 甲： そうですね。画像を拝見させていただいたときに緑だったので、目に優しい色だなと思いつつながら。

湯崎知事： 地球に優しいんです。

愛 甲： そうですね。

司 会： お二人息ピッタリですね。家宝によろしく願いいたします。

湯崎知事： ありがとうございます。

司 会： そして STU48 から峯吉さん 4 回目の参加ということで、自己紹介をお願いします。

峯 吉： STU48 の峯吉愛梨沙です。今日もよろしく願いします。頑張ります

司 会： 峯吉さん、これまでは非常にノンプレッシャーだったかもしれませんが、今日は発表が峯吉さんからもあるということで。

峯 吉： そうなんです。今日は最終回ということで、私からも知事に聞きたいことを考えてきたので、プレゼン頑張りたいと思います。

司 会： 歌の練習とこのプレゼンの練習、どちらが大変だったですか。

峯 吉： こっちですかね。プレゼンの練習いっぱいしてきました、頑張ります。よろしく願いします。

司 会： よろしく願いします。

司 会： そして総合技術の天野さん、自己紹介をお願いします。

天 野： 広島県立総合技術高等学校からまいりました、天野卓海です。今日はよろしく願いします。

司 会： よろしく願いします。天野さん、割と女性陣の皆さんキャラクター濃いですが、俺も特技あるぞとかあったら言うておいたほうが。特技、俺だってあるぞという何か。

天 野： 特技はすごく昔というか、小さな頃になるのですが、僕は保育所の頃に運動会をやるじゃないですか、そのときにどうしてもやりたいことがあって、一輪車をすごく練習して、今はすることは無いのですが、足の続く限りいつまでも走れるようになりました。

司 会： すごい。自転車乗れるようになったのと、一輪車乗れるようになったのはどちらが先ですか。

天 野： もちろん一輪車の方が先でした。

司 会： かっこいい。ここでもちろんという人なかなかいませんからね。ありがとうございます。よろしく願いします。

司 会： そして N 高校からタクールさん、自己紹介をお願いします。

タクール： 高校 2 年生、タクール・小迫・美衣南です。よろしく願いします。

司 会： よろしく願いします。タクールさん特技はどうですか。

タクール： 特技は、あとでも言うのですが、自分インドに 4 年間住んでいまして、そのときに英語を頑張ったので今では英語がしゃべれます。あとは歌とダンスとか。

司 会： 歌とダンス、STUさんとジャンルがかぶっておられる。

タクール： そうですね、そうなんです、自分はアイドル系の歌もすごく好きなんです、洋楽だったり、ジャンルにとらわれずいろいろなアーティストさんの曲が好きです。

司 会： STUさんに何か入れてくださいとか、入ってくださいと言われてたり、何かあったりしませんか。

タクール： そうですね、自分はちょうど 1 年くらい前に公開オーディションに参加していて、メンバーさんにも何回か会ったり、公演にも出させていただいたり、いろいろといい経験でした。

司 会： 何か御縁だなと思いますね。今日はよろしく願いします。

タクール： よろしく願いします。

司 会： なおこの模様は RCC のアプリ IRAW でも配信しています。配信していますが、いつもどおり、岡さん、愛甲さんお願いします。

岡： 分かりました。

司 会： ただマイクを持たないと乗れませんので、そこだけよろしく願いいたします。

司 会： それではまずは、湯崎知事より「ひろしまビジョン」の概要、高校生の皆さんに知ってほしいということなのでぜひ教えてください。お願いします。

## ひろしまビジョン

湯崎知事： それでは意見交換の前に、「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」について説明をしたいと思います。

このビジョンは今から10年後の広島県、こうありたいという姿をまとめたもので、いわゆる行政的にいうと、広島県の総合計画と呼ばれるようなものです。今から10年後は皆さん20代後半くらいの感じで、この10年間の間にいろいろなライフイベントが多分あると思うのです。進学したり就職したり、そういう皆さんこれからの将来と、広島県の目指す姿を重ね合わせてみて、こうだったらいいなとか、もっとこうだったらいいなとか、そういうことをあとで意見をもらえればと思います。

このビジョンの前提になるわけですが、今どんなことが課題としてあるかということですが、いろいろとありますよね、今書いていないのですが、戦争とかも始まったりして、非常に先行きを見通すというのは難しい時代になってきていますよね。こういった時代でも、皆さん含めて次の時代にしっかりとバトンを渡していかないといけないということで、そのために基本理念と10年後の目指す姿というのを定めているのですが、基本理念というのは、将来にわたって「広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かった」と心から思える広島県の実現ですが、これだけだとよく分からないかもしれないですよ。目指す姿があって、県民一人一人が「安心」の土台と「誇り」により、夢や希望に「挑戦」しています。仕事も暮らしも。里もまちも。それぞれの欲張りなライフスタイルの実現としています。

この目指す姿の実現のためには、まず今いろいろな不安なことがあるわけです。コロナもそうですし戦争もそうかもしれないし、あるいは高齢化とか人口が減っていくという、そういういろいろな不安ありますが、そういった不安を少しでも軽く。どんな社会でもなくすというのは無理だと思うんです。ただ少しでも軽くして、安心につなげていくというのがまずベースとしてあると思います。その上で広島県いろいろな素晴らしいものがありますよね。自然もあるし、あるいは技術もある、あるいはビジネスもアイドルもいるし、いろいろと僕らが持っている誇りみたいなものってたくさんあると思うんです。そういった強みを伸ばしていくということです。誇りを高めていく。この安心の土台、それから誇りも土台になると思うのですが、それをベースに県民の皆さんがどこに住んでいても、夢や希望に挑戦できる社会を目指していきたいということです。県民の皆さんが挑戦をしていくというのが、県民の皆さんの働きがいか生きがいか、あるいはそれが重なっていくと地域の活力になっていくし、それがまた積み重なって広島県全体の活力とか発展につながっていくと思っています。

そのためにいろいろな取組をしているのですが、個々の取組いろいろとあります。あとでもちょっと出てきますが、子育てだとか医療とか、もちろん教育もそうだし産業とかいろいろとあるのですが、そういった取組を進めていく上で、3つの視点を持って進めようとしています。

一つはデジタルトランスフォーメーション、DXというものです。DX、これはビックデータとかデジタル技術を活用して、生活に関わるあらゆる分野で、これまでのビジネスモデルを変えていくということです。DXを通じて、社会がより便利になったり快適になったり、豊かになっていく可能性も秘めているので、デジタル技術を活用して暮らしとか仕事がいかに充実するような社会を実現していきたい。これが一つです。

もう一つがひろしまブランドの強化。これは誇りにもつながっていくと思うのですが、いろいろな強みを広島県持っています。それをいろいろな施策を進めていく上で、広島県の強みを意識していこうと、そうするとひろしまのブランドも高まって行って、みんなから選ばれたり、それこそ県に住んでいることを誇りに思うような、そういう広島県になっていくということです。

最後、もう一つが人材育成がありまして、変化が激しくて先が見通しにくいわけですが、その中をみんな泳いでいかないといけないわけですよ。そういうことができる人材を育成していく必要があるということで、最近ではよく大学の入試改革がいわれませんが、大学で始めたんじゃ遅いので、広島県は生まれる前から一貫して、新しい学びと我々言っていますが、支えていくということで新しい人を育てていくということを取り組んでいます。

先ほどいったように分野はたくさんあって、我々は17の分野で分けて、いろいろな施策を進めています。これはそれぞれいうと17時間ぐらいかかっちゃうのでやめておきま

すが、先ほども申し上げたような、3つの視点をそれぞれの施策に横串をさして進めているということです。ということで皆さん将来のことを考えるときに、このビジョンを思い出して参考にしてもらえればと思います。ありがとうございます。

司 会： ありがとうございます。

これについてN高校のタクールさんにぜひ感想を聞きたいのですが、昔は我々のときは、スポーツか勉強かとか二者択一。それどころか今、二つも三つも同時に自分の人生切り開こうと、タクールさんまさにそんな感じだと思うのですが、挑戦とか欲張りとか、こういったところのビジョンは感じたこと、タクールさんどうですか。

タ クール： そうですね、自分は海外に住んでいたときから、一つの道に決まていくのが難しいなと感じ始めていて、日本に帰ってきたとき、広島ここでもう一回住み始めたときに、そういうものが強くなって行って、いろいろな選択肢を模索してという感じで、今トライアンドエラーという感じです。

司 会： どうですか、トライするのって勇気がいたり、周りから「無難な方にいきなさい」と言われることもあると思うのですが、そのへんはどう整理していますか。

タ クール： そうですね、やっぱりそれでも言わなければ始まらないし、何かしないとフィードバックが返ってくるということすらもないので、そういう勇気は頑張って絞り出していきかないなと思います。

司 会： ぜひこの後も、いろいろと聞けるので刺激になればと思います。

## 意見交換

司 会： 皆さん共通でここから伺いたいのが、将来にわたって広島で就職したり生活していたり、あるいは起業してもいいんです。暮らしていきたい。将来にわたって広島でという思い、これがマルかバツか、この前は三角もおられました。峯吉さんすみません、同じあれを4回目なんですけど、ちょっと工夫しながら、お手元のボードに記入してもらってもよろしいでしょうか。お願いします。正直、全員マルということもなくて、皆さん正直な思いをいつも書いてもらっています。

気になるのが総合技術の天野さんのマルの書き方が本当にきれい。皆さん書けましたでしょうか。

それではそれぞれ自分の正面にカメラがありますので、正面に向かって上げていただきたいと思います。

順番で、まずはタクールさんと天野さん、目の前に向かって上げてください、どうぞ。バツとマル。下ろしていただいて、次、岡さん、愛甲さん、峯吉さん、どうぞ。花マルプラスニコちゃんマーク。マルよりのバツ、ニコちゃんマークという。集計しろといったら集計できないような皆さん答え。

岡さんから聞きましょう。岡さんこの極限の素晴らしいマルは。

岡 会： 私は花マルにさせていただきました。理由はですね、私はどちらかというと広島県といわれると、その中でも福山市にこれから先も住み続けていきたいと思っておりまして、その理由がとても簡単なことなのですが、福山城に晴れた日に行ったんです。そのときにベンチに座って空を見て音を聞いたら、ずっとここにいたいわと思って、直感で私はこちらが好きだと思って。今日も久しぶりに北口に来たのですが、この福山城に来たのですが、やっぱり好きだなと、私ずっとここに居たいです。

司 会： 今日は福山城の月見櫓から配信しているのですが。

岡 会： 幸せですね。

司 会： 泊まっていきたいぐらいの。

岡 会： 泊まりたいですね。

司 会： 思いは伝わりました。

愛甲さん、ちょっと複雑な思いを書いておられます。マルよりのバツということで。

愛 甲： そうですね。理由としては、福山市は人口が多いのですが、それだけな気がしていて、今後、発展できるのかなというところが不安です。若者の流出もあるので、それを最大限止めるというふうになると、若者が興味を持つ何かをしていかないといけないのかなと思っています。それなので住みたいけれども、このままだったらバツかなという感じです。

司 会： 分かりました。

ここで湯崎知事にお伺いしたいのが、現状の福山のポテンシャル、福山城盛り上がり

ています。課題も含めて福山というエリアどう見ていらっしゃるでしょうか。

湯崎知事： 福山は人口 50 万近いというか、都市圏でいうと 50 万を超えるようなところですが、そういう意味では、実は並の県庁所在地より大きいのです。ただ結構これまでの発展の中で、もともと福山駅近くが中心だったのが、分散していった感じがあるでしょう。今それをもう一回、福山駅を核にしていきたいと市はいろいろと取り組んでいて、そういうことを通じて、より楽しくなるんじゃないかなとも思います。

今、伏見町とか、もともと再開発のつもりだったけれども、再開発が頓挫してしまったのですが、今あるビルを活用していろいろなお店ができたり、僕ら大人にとってはビールのいいところができたりとか、そういう面白い、何か人の温かみが伝わるようなところが増えているので、そういうのもまた若者にも楽しんでもらえるんじゃないかと思うので、これから駅前が発展するのが楽しみです。

司 会： 愛甲さんは打合せのとき、学校の周りとか福山でもおすすめの店とか新しいのができているんですとおっしゃっていましたが、結構いろいろとできてきたり、雰囲気変わってきていたりしていますか。

愛 甲： そうですね、自分自身でなかなか学校周りというのが、家から遠いので見渡す限りはあまり変化は感じられないのですが、成ちゃんはどう思う？

岡： そうね、私はやはりエフピコアリーナができてから、子どもとか親とかそういう人たちが、よく遊びに来てくれる感じがします。そしてバス停もすごくきれいになっていて、「あれ、ちょっと待って」みたいな。福山駅に近づけば近づくほど発展しているように感じます。

湯崎知事： 駅前広場をね、また変えていくという案が今出ているのを知っているよね。あそこをもっと、ウォークアブルといいますけど、ウォークアブルにしてもっと対流できるような、そういう場所にしていこうというのが今の市の方針なんですよ。

司 会： 知事、勉強のために、当然エリア広げて盛り上がっていくというのも、すごくメリットあるんでしょうが、もう一回、町の中心でという、ここの強みってどんなところにあるんですか。

湯崎知事： やはりにぎわいって人が集まっていないと楽しくないじゃないですか、集まること自体が楽しさを生んでいくというか活気を生んでいくので、それが分散していると、どこに活気が、50 万人も人口があるのに、みんなどこにいるんだろうという感じになるので、そこでここに核を作っていくということですよ。ショッピングセンターもあるんですが、ショッピングセンターって、みんな目的を持って行って帰ってくるという感じですから、それだとぶらぶらするとか、予期しないような出会いみたいな。

司 会： 目的のないという。

湯崎知事： そうそう。何かぶらぶらするとか、たむろするとかね。

司 会： これから福山も変わっていくということで。

そして天野さんはマルということで、この思いを教えてもらってもいいですか。

天 野： 私はどこで働きたいか、どこに住みたいかといわれると、やはり自分の生まれ育った地域のために働きたいし、そこで安心できるから暮らしたいと思います。ですが働くに当たって、自分のできることも含めて、適材適所というものをすごく自分は大切にしていて、自分の適する場所や適することが他に見つかるならば、その限りではないなと思っています。

司 会： 分かりました。これからいろいろと可能性があると思うので、新たなところがひょっとすると見つかるかもしれない。

一方でタクールさんはどうですか、割とはっきりとバツと示されましたが。

タクール： そうですね、自分は多分一回福山の外で生活をしていたからかもしれないのですが、一つの場所にずっといるのが何か苦手というか、冒険をしたがる性格なんです。だから最近ここ数カ月、エジプトに行きたいとずっと思っています。

司 会： どうしてエジプトなんですか。

タクール： 普通に雰囲気とかがすごく好きなんです。博物館とか歴史とかいろいろ面白そうなものがたくさんあるので、そういうふうに好奇心がたくさんあるので、福山もすごく好きなんですけど、働くとかずっと住むとなると、いろいろなところにわあって行きたいという感じです。

司 会： 正直、皆さん過去 4 回も全員マルじゃなくて、いろいろなところへ行って経験を積みたいとか、湯崎知事も広島県知事ではありますが、やはりいろいろなところで経験を積むのは、すごく大事だということは力説これまでもされましたよね。

湯崎知事：　そうですね。やはり自分の引出しをたくさん作るというのは大事なことです。よく多様性といわれるけれども、多様性というのは、いろいろな人がいるということのももちろんあるし、自分の中も多様である。いろいろな経験も含めてあると思うので、いろいろなところへ行って、いろいろな経験をするといいことだと思います。

司　　会：　そしてSTUの峯吉さんは、すみませんこれは4回目のやり取りですね。中身を変えてお願いします。

峯　　吉：　私も今回も変わらずマルなんですけど、岡さんと似ているかな、人生何回目ですかというぐらい大人な意見だったんですけど、広島から福山って遠いじゃないですか、だから私もあまり福山に来る機会がないのですが、今日福山城に着いてバスを降りた瞬間に、「いいところだな」と、空気感がいいなと感じたので、私もずっと広島にいたいなという意見は変わらないかなと思います。

司　　会：　毎回うまいこと書いてもらってありがとうございます。

岡　　：　福山を応援してもらってありがとうございます。

司　　会：　二人でユニット作ったら人気出そうですね。分かりました、ありがとうございます。我々もいろいろな思いを聞くことができました。

## 話題提供

司　　会：　ここからは皆さんから、今高校生こんなことを考えているよとか、湯崎知事にこれを聞いてみたいというのをそれぞれに発表していただきたいと思います。まずはN高校のタクールさんからお願いしてもよろしいでしょうか。

### 参加者①

タ　ク　ール：　N高等学校2年生のタクール・小迫・美衣南です。

今日は自分の経験を踏まえて教育について、知事や皆さんとお話しできればと思っています。

簡単な自己紹介ですが、私は帰国子女で南インドのチェンナイというところに約4年間住んでいました。小学6年生のときに英検準1級、高校2年生のとき1級をなんとか1点上で筆記試験合格しました。TOEFL IBTは、ぱぱっとやって90点という感じです。

今日、主に話すトピックですが、言語環境とキャリア教育について話していこうと思います。

まず言語環境についてですが、最近、英語とか第二カ国語の教育は盛んなんですが、学校の外に1歩出るとあまり使う機会がなかったりして、自信とかモチベーション、やる気がわからないというのが結構周りでも聞くし、自分でもそう思うのですが、そういう生徒の自信とかモチベーションが作りにくかったりするので、親も子どもも全部まとめて地域まとめて、教育や視野を広げられる、英語にもっと触れられるという場所を増やしてほしいと思います。

キャリア教育についてですが、情報化だったりグローバル化など、さまざまな課題が出てきているのですが、その中でいわゆる就活ってあるじゃないですか、その高校生版に近いようなものが、私はあったらいいなとすごく思うのです。高校生活をしていて、高1、高2と段々上がっていくと、高校出た後に何するのと、よく先生や親と話すじゃないですか、でもなんとなくやっていたら1年過ぎていったりとか、あまり考える機会がなかったりする子も結構多いと思うんです。

それなので高校生にも就活というのがあったら、やりやすいんじゃないかなと思うのと、いろいろな職業が世の中にはあって、中にはメジャーな職業とマイナーな職業というものがあると思うのです。スポットライトが当てられないとか、あまり知ってもらえていないとか、そういう職業も特に田舎とかにたくさんあると思うので、そういうものこそ職業体験とか、もっといろいろな高校生とか、いろいろな人が触れられる機会があったらいいんじゃないかなと思います。

司　　会：　タクールさんの今回のテーマですが、湯崎知事、まさに広島県でもかなりこういった言語教育とか多様性とか、だいぶやっていたらいいところが多いじゃないですか。その辺りはいかがでしょうか。

湯崎知事：　そうですね、言語教育というのは学校の外では、なかなかチャレンジングなところがあって、これは広島市だと高校生に外国人のお客さんにガイドをしてもらったりとか、

いろいろとあるのですが、そもそも外国人がいないと、それが成り立たないというのがあったりして、ただ場としては働いている外国人の人たちもいますよね、そういう人たちが、例えば日本語を学ぶ場みたいなものがあるって、そういうところを手伝ってくれている高校生もいるんですよ。それがあまり広く知られていないというか、自分で探していけないと、なかなかそういう場を見つけにくいかもしれないので、そういったところは、もっと機会を紹介するというのはあるかもしれないと思います。

職業についてはこれがおっしゃるとおりで、みんな今悩むときですよ。悩むときに何か材料がちょっと足りないのかなという感じもしますし、マイナーな職業こそ、職業体験というのは本当にすごくいい意見だなと思うのです。何かうまくできるといいですね。いいですねって何か他人のように言っているけれども。

司 会： 例えばタクールさんどんな仕事、これの体験があればとか。運転手さんとかはやっぱりあるじゃないですか。

タクール： そうですね。何ていうんでしょうか、最近、自分そういう職業にフォーカスした漫画とかすごく読む機会が増えて、その中で、あれこんな職業ってあったんだと思うものが結構あるんです。でもそういうのがないと日常って割と成り立たなかつたり、回らなかつたりするのも多いので、そこに何か人が集まらないとバランスが崩れたりとか、自分たちが普段過ごしている日常が保たれなかつたりというのもあると思うので、具体的な例が出てこないのですが、やはりそういうのはすごく必要だなと最近思います。

司 会： タクールさん、すごく進路を一生懸命自分の力で考えたりして、そういったところで知事に教育について聞いてみたいこととかいかがですか。

タクール： そうですね、自分はインドの小学校にいたときに、第三カ国語の授業は既にあつたんです。小学校の中では英語を基本的に使ってという状態だったんです。自分が行ったとき全く英語ができなくて、なんとか頑張っていたんですが、第三カ国語の授業が選択制で、フランス語とかスペイン語、あるいは現地のローカルな言葉とか選べるようになっていて、そういうのは日本にも、広島にも何とか取り込めるんじゃないかなと思います。

でもそれには英語がもうちょっと進んでいかないと、第三カ国語にはついていけないのかなと思ったんですが、でも第三カ国語というのがあると、2個目の言語もスムーズに学べたりするんです。1回第二カ国語までいくと、その後が楽にいくのです。これは結構、有名な話ですが。それなので小学校とか中学校、高校にもそういうのはどんどんやっていけばいいんじゃないかなと思います。

司 会： 実際、よく我々がいうのは英語は将来、機械がこうやって翻訳してくれるからいいよと、やらない人がいますが、そういうのではなくて、まず英語をやってそこから開けるところがあると思うのですが、知事、英語教育とか第三カ国語含めてどうですか。

湯崎知事： そうですね、結構海外では第三カ国語みたいなのを早くからやるところはあるんですが、韓国でもあつたりするのかな。ただ日本の場合には、そもそも英語すらなかなか、ちょっとそこまですっていないのが現状なので、英語を固めるということが必要かなという感じはします。

あとはインドもいろいろな言葉があるので、英語が共通語になっているから、外国語といっても自国語なんですよ共通言語なので。それに加えて第三外国語という、だから第二外国語に近いような感じだと思うんです。ヨーロッパなどもそうですね。非常に近縁の言葉でできているので、よく四カ国とか五カ国とかしゃべれますという人たちがいるんですが、割とスペイン語とイタリア語似ているとか、そういった感じですよ。

司 会： でも知事、これから学校の形って変わっていくんですか。我々がよく思っている国語、算数、理科、社会みたいなどころから。

湯崎知事： それは変わっていますよね。今、変わりつつあつて、特に最近、段々増えていると思うのですが、昔は大体、先生が黒板の前について、生徒はみんな先生と黒板の方に向いて、先生の板書きを写していくというそういうあれでしょう。最近みんな、こうやって班を作ってお互い向き合つて、ディスカッションしながら進めていくスタイルが増えていると思うんです。これまでは先生が教えるというものだったのが、これからは生徒が学ぶことを手伝う。だから先生も180度転換するんです。教える人だったのに教えるはいけない。

司 会： 難しいですね。

湯崎知事： 教える人だったわけですよ、でも教えちゃいけない。教えるんじゃなくて学ぶことを助けるんだと。これは大転換でなかなか先生もそこについていけない問題があつて、



これは学びの変革とって、ずっと今、広島県やっているんです。これはなかなか難しいんです。身に染みついた、教えるというのが、やはりあるんですね。

司 会： ありますものね。

それでも岡さん、リモートで打合せをさせてもらったときも、割と福山商業は、先生が前に出るのではなくて、二人がしゃべって見守っているという雰囲気だったのですが。

岡： それは。

司 会： あれは、挟む口がなかったのかというぐらい。

岡： あれはもう、主体性が育ちすぎて先生を置き去りにした感じだったかなって。

湯崎知事： 福山商業は割と今、それは進んでいるところなんですよ。

岡： 今、頑張っていて、先生が教えない、教えない、教えないから考えてみてと頑張っています。先生も生徒も懸命に頑張っております。

司 会： 確かに本で読みました。商業高校は時代がという話が、いや商業こそ新しいんだと。県はかなりこういったところに力を入れているんですよ。商業高校。

湯崎知事： 平川教育長がすごくそれに力を入れてやっているのだから、だから今、商業高校、工業高校の大変革をやっていますよね。生きる意味を考えろとかね。

岡： そうです。後々話させてください。

司 会： 分かりました。ありがとうございます。段取りもやってもらってありがとうございます。

タクールさん、ありがとうございます。まずは教育について話題提供いただきました。

続きましては、総合技術高校の天野さん。知事に聞きたいこととか、いろいろと話題の提供をお願いします。

## 参加者②

天 野： 私からは質問を持ってきたのですが、その質問をする前に自分の経歴というかバックグラウンドのお話をして、それを踏まえて質問をしていきたいと思うので、自己紹介を含めて発表をさせていただきます。

司 会： お願いします。

天 野： 改めて、広島県立総合技術高校からまいりました。以前は食デザイン科が総合技術高校から出演したと思うのですが、私は電子機械科という工業科からまいりました。

電子機械科では電気系・電子系・機械系・情報系といった広く浅くではあるのですが、多分野の基礎的な知識、技術を学ぶ学科となっています。

ここで自分のバックグラウンドということで、高校で取り組んできたことについて話させていただきます。まず一つ目は資格検定の取得のことについて、自分が最も力を入れてきたことなのですが、総合技術高校では全員受験をする資格もあって、この中で大半が全員受験の際に取得したものなのですが、第二種電気工事士だったり電気主任技術者、あとは機械製図検定だったり情報技術検定というので、学科の特色どおり電気系のみだったり機械系のみといったような知識の付け方ではなく、いろいろな分野に及んで知識を付けていきました。

次に技術習得の部分についてお話しさせていただきます。毎年1年に1度、高校生ものづくりコンテストが開催されているのですが、そこに昨年から参加させてもらっています。昨年の2年生の頃には機械製図部門に参加させていただきました。3年生になる以前、1、2年生の頃は知識習得のために資格の取得であったり、ここにある機械製図部門の参加など、知識が鍛えられたということには少し自信があったのですが、実践的なものづくりの技術が身につけていないということが少し後悔があったので、3年生になってからは、実際に加工技術を競うように旋盤部門に参加しました。

そこでこの写真が旋盤と呼ばれる機械で、今日は自分がやっていることを見ていただきたいなと思って、一つ旋盤で作った作品を持ってきました。見ていただけますでしょうか。

湯崎知事： すごいね。

天 野： コンテストのお題で作ったもので。

司 会： コンテストで作ったものです。

天 野： ねじになっていて、3つの部品で構成されています。実際に触ってみてください。

湯崎知事： 重い。

司 会： 重いですか。

湯崎知事： やはり金属の塊だから重いですよ。

司 会： 一番難しいところは、どんなところですか。

天 野： 一番難しいところは、全体的に僕はまだ未熟なんですけど、最も難しいと感じるのは仕上げと呼ばれる加工で表面を磨く、しっかりと磨いて光沢を出すという過程の中で、やはり仕上げなので一度きりのチャンスなんです。そこで一発で決めないといけなくて、やはりそこには習熟が必要なので、その不出来に関しては、まだまだ自分のスキルが足りていないなと思います。

湯崎知事： 鉄のいい匂いがします。

司 会： 鉄のいい匂いが。

湯崎知事： 0.5ミクロンの精度でできています。

司 会： 0.5ミクロン、ぐらいの気持ちですね。

湯崎知事： ちゃんとパーツが緩まないように、きっちり合っていないといけないということだよ。それがちゃんと合っているし、ネジもしっかりとこれで止まってきちんとはまっている。こういう斜めとか、こういう段とかということだと思うのですが。すごく立派にできている。これはお返しした方がいいかな。

司 会： 返していただいて。

天 野： ありがとうございます。

司 会： 高校生でこれだけできたら賞とかは実際どうですか、コンテストの結果とかは。

天 野： この高校生ものづくりコンテストに関しては、2年時に参加した機械製図部門で県の大会で1位入賞しました。

湯崎知事： 素晴らしい。

司 会： おめでとうございます。

天 野： やりたいこと、できることがあって結果も出てということ、どうですか今日は知事に聞きたいこととか伝えたいことはなんですか。

天 野： 本題の方に近づいていきたいと思います。今、取り組んでいることについて先にお話しさせていただきます。

3年生になってから私の電子機械科では、課題研究という授業をしています。5人1グループになって自分たちで研究テーマを決めて、それに取り組んでいくという活動で、自分のグループでは、そのテーマにあるように振動発電装置を組み込んだクレーンゲームの開発というテーマで取り組んでいます。振動発電装置というのは、いろいろな形態があると思うのですが、私が使おうと考えているのは圧電素子といわれる、変形させることで電力を生み出すといわれる材料を使って作ろうと考えています。

これを作ろうと思う目的が、環境問題解決への寄与、環境発電と呼ばれるいわゆる二酸化炭素を排出しない火力発電とか、二酸化炭素が地球に悪影響を与えるものとはまた別の考え方から発想したもので、研究テーマの後ろのクレーンゲームの開発というものについては、総合技術高校で、「華金ショップ」という地域の人々を招いてレクレーションを行ったり、物の販売をするというイベントがあるので、そこに提供できる形態にすることができて、それに更に振動発電という環境発電の考えを取り入れた装置を機能付できればイベントで人の目につく機会もあるし、そういった課題解決、環境問題解決であったりとかの関心を高める狙いもあって、そういう形態のクレーンゲームを作りたいと考えています。

今日、本題の湯崎知事と語りたいことなのですが、私が今後大学へ進学して先端的な研究や開発に携われる人になりたいと考えているのですが、この課題研究の授業でもよく口を酸っぱくして言われるのが、自己満足で終わってはいけなくて、社会の中のニーズであったり、どんなことが本当にそれが効果があるものなのかといったもの、そういう制作段階に移る前の理論をすごく大切にしている、そういう活動の中で課題解決のための取組というものの難しさを実感しています。人がそれを自分が真に人の役に立つものを作るためには、人が何を求めているのかを理解する必要があると強く感じています。

そこで質問させていただくのですが、湯崎知事の経験の中で、人が工業に求めていることは何かということと、またこれは湯崎知事個人的な考えていいのですが、湯崎知事自身が工業に求めていることや、実現してほしいことなどがあればお聞きしたいと思います。

司 会： いかがでしょうか。

湯崎知事： とてもいい課題意識だと思うのですが、工業に求めていることはやはり物を作ること

だと思うのですが、それによって幸せにつながるというか、今風にいうとウェルビーイングとかにつながるという、そういうものだと思うのです。

ウェルビーイングの形態というのも、段々いろいろな人の価値観によって変わってくるので、例えば今日は紙コップですが、これはプラスチックボトルだったりするのですが、今はプラスチックボトルは当たり前ですが、海洋プラスチックゴミの問題だとか、あるいはこれは燃やしたらCO2排出になるのですが、それなので例えばこれもプラスチックではなくて違うものにしようとか、あるいはプラスチックでも環境に出ていったら腐るもの、いわゆる生分解性のものだとかそういうふうになったり。

これは紙ですが、紙の場合は環境に出ていっても分解されるのでいいのですが。そういうことが価値になったりするので、それ時々の人々の大事にしている価値というものを、しっかり踏まえながら、それを使うことによってハッピーになる。そういうものが物には求められるのかなと思います。

今そこで、これは工業という風には言っていますが、科学とか技術とかいうことがベースにあると思うのです。それについて何を求めているのかというところが、すごくいいクエスチョンだと思うのですが、今考え方としてELSIという考え方があって、これはどういうものかという、Ethical, Legal, Social, Issues, ELSIという考え方なんです、そういう倫理的だったりとか、あるいは法的にどうかというものも取り込みながら技術だとか考えて、もちろん作る物も考える。端的にいうと、例えばそれこそ原爆なんていうものは、その反ELSIな最たるものじゃないですか。

司 会： 技術は高いけれども逆方向にできてしまう。

湯 崎 知 事： そうそう。そういうことも取り込みながら、人がウェルビーイングにつながっていくような、そういうものを作ってほしいと思います。

司 会： 私なんか何か求められて答えなんかなくて、考えを持っているだけ疑問を持っているだけで、素晴らしいと思うのですが、STUの峯吉さんどうですか、こういう意識というのは、多分お客様を大事にするというところとすごく近いと思うのですが、どんな風に感じましたか。

峯 吉： そうですね、私が一番刺さったのが自己満足で終わったらいけないというのが、めちゃくちゃ刺さって、自分が良ければいいと思ってこれまで生きてきたので、もっとみんなに楽しんでもらえるにはとか、ファンの方にもっと喜んでもらえるにはということを考えて、意識して生きていかないといけないと勉強になりました。

司 会： 各分野に置き換えられる発表で、天野さんありがとうございました。

天 野： ありがとうございます。

続きまして福山商業のお二人から、発表と知事に聞きたいことをお願いします。

### 参加者③

岡 甲： それでは改めまして、広島県立福山商業高等学校からまいりました岡成美と。

愛 甲： 愛甲凛です。よろしくお願いします。

岡 甲： よろしくお願いします。

司 会： 会の雰囲気が変わりましたが、お願いします。

岡 甲： これから湯崎知事に聞きたいことを言っていきたいと思います。

愛 甲： その前に私たちの学校を紹介させてください。

岡 甲： 成美と、

愛 甲： 凛の、

岡・愛 甲： 福商PR。

愛 甲： そういうことで始めました、福商PRまず、

岡 甲： 福山商業高等学校は、福山市唯一の商業高校です。

愛 甲： 福商というのは福山商業の略なんです、書き方として福に笑いという書き方もできます。

岡 甲： そうね、結構学校でアピっているよね。

愛 甲： 意外といろいろなところで出たりします。

岡 甲： ねえ、凛ちゃん。うちねこの学校に入って驚いたことが一つあるんですよ。それはね、これ。

愛 甲： 出た。

岡 甲： とある授業で初めて授業を受けます、プリント配られます。これです「生きるって何？」

と聞かれました。私びっくりして見たときに「えっ」って言っちゃって。

愛 甲： 懐かしいね。私も普段考えないようなことを考えさせられた気がして、最初から飛ばすなと思ってしまった。

岡： 分かる。

愛 甲： やはりこういうことを考えると、自分たちの意見も出てくるわけですが、皆さんは生きるってなんだと思いますか。

岡： いや、困るって凜ちゃん。

愛 甲： 困るよね。それじゃあ成ちゃんはどう書いた。

岡： うちね一番最初に書いたとき、呼吸することって書いていました。

愛 甲： なるほど。当然のような模範解答のような。  
私は文字を書くのは好きなんですが、ちょっと100字でまとめるとなると、さすがに書けなかったかな。

岡： 分かる。それでグループで意見交換して話し合っって、こういう意見もあるんだって、いろいろな風に考えが広がって、たくさん書けるようになったりしたよね。

愛 甲： いやあ、いいねやっぱ。意見交流はせんといけんてね。

岡： 受けてどうするんだよ。

愛 甲： 受けてしまった。

岡： ちょっと寒いけど。

愛 甲： そろそろとある授業が気になっているんじゃないかな。

岡・愛 甲： ビジネス探求。

岡： そのビジネス探求という授業です。

愛 甲： なんていったって、ベリースペシャルな授業ですからね。

岡： ビジネス探求は令和2年、私たちの代から始まりました。

愛 甲： つまり私たちが偉大なる1期生というわけですね。

岡： そういことですね。ビジネス探求はこのように3年間を通して行われます。

愛 甲： それでは1年生の頃に戻って見ていきましょう。

岡： それでは1年生の時、ビジネス探求の授業を行います。ビジネス探求とは先ほどの生きるって何から始まり、働くこと、社会のこと、お金のことなど、さまざまなことを学んでいきます。

愛 甲： 週1で4時間連続で、体力的にもすごく大変だったな。

岡： 頭使いすぎて、こーんなことになっていたりとか。

愛 甲： ペアとかグループワーク、全体発表も多くてすごく大変だった。緊張よ。

岡： 今となつては、こんなにハキハキとしゃべれているけれども、始めはやっぱり緊張してしゃべれなかった。

愛 甲： さすがにね。人間1からそんなできませんから。あの頃は青かった。

岡： そうですね。そうして。

愛 甲： 2年生の時、ビジネス探求が進化してEEプログラムになりました。EEプログラムになって何が変わったのでしょうか。

岡： そうですね、EEプログラムになって授業は週3回になりました。週3回になりまして、起業家教育に特化したNPO法人NFTEが提供しているカリキュラムをやるのです。

愛 甲： 君は一体何を言っているんだ。

岡： 起業家教育に特化したNPO法人NFTEが……

愛 甲： うん、それは分かる。それはとても分かった。ちょっと言い方が、言葉づかい難しすぎじゃない。ちょっと簡単にいこう。

岡： すみません。分かりました。  
そうですね、簡単にいきましょう。簡単に言います。  
ビジネス探求、一つ目、起業家に必要な力を身に付ける。二つ目、自分でビジネスアイデアを考える。三つ目、発表を繰り返す。

愛 甲： 必要な力は独創的発想力やコミュニケーション能力、転換力、計画実行力など、こちらに約8つほどあるのですが結構大変でしたね。

岡： そうですね。しかも目に見えない力なので、こういう場がないとなかなか見えてこないというところも大変でした。  
凜ちゃん、その前に自己PRを書いていたじゃん。そのときに枠があつて、それ量が多すぎてはみ出していなかった？

愛 甲： 文章の力の一部ということですね。

岡 : 最後に課題研究です。これは総合技術さんとおそろいですね。  
この課題研究はビジネス探求と EE の総まとめとなっております、より実現可能なビジネスプランを考えます。中には福山市にもっと人を呼び込みたいというものもあったよね。

愛 甲 : そうね、ありましたね。他にも企業の方からお話を聞けたり、アドバイスをもらえたり、毎回頑張ろうと思えるんだよね。

岡 : 今、考えているたくさんのビジネスプランを実現するために、一人一人頑張っています。  
そしてビジネス探求の授業の評価ですが、生徒にアンケートを取りました。すると、いいと思った人が 70 パーセント以上、そして普通と回答した人も含めるというまでもないですね。

愛 甲 : 中にはこの授業が一番楽しかったと言ってくれる人もいます。

岡 : 素晴らしいですね、すてきですね。  
本当にこの 3 年間でいろいろなことを学んできたよね。

愛 甲 : 学んだ。これだけだと思っているよね。

岡 : まだあるの？

愛 甲 : これだけだと思っちゃいけませんよ。

岡 : これだけじゃないって他に何があった？

愛 甲 : 実は学校の枠を越えた活動もしているんですね。例えば Sta-sh, 高校生会議, WYC の世界大会など、多くの場所でこの授業を受けた生徒たちが活躍しています。

岡 : もしかして、ここに立っているのもそれ。

愛 甲 : そういうことですね。やはりこういう活動をしてきたからこそ、こうやってハキハキしゃべれるし、いっぱいなんかこうプレゼンさせられるし立つよそりゃここに。

岡 : ちょっとドヤりますね。

愛 甲 : ドヤッときましょう。

岡 : ドヤッときましょう。  
そして皆さんお待たせいたしました。長々とお待たせいたしました、やっとここまできました。私たちは先ほど説明したとおり、課題研究などさまざまな授業の中で福山活性化のために懸命に活動をしています。

愛 甲 : ここで湯崎知事に質問です。広島県には市が 14 個、町が 9 個ありますが、その中で福山市のことをどう見ておられるのか、そして福山市のいいところと課題を教えてください。

岡 : そして私たち高校生に求めるものも、ぜひ教えていただけたらと思います。  
ありがとうございました。

司 会 : ありがとうございます。  
このままほっておくと、お二人の感想を言ってしまうそうなのですが、知事、質問は福山市をどう見ているかというところなのですが、いかがですか。

湯崎知事 : 本当にプレゼンありがとうございました。初めてのパターンでね。

司 会 : びっくりしましたね。

湯崎知事 : 福山市をどう見ているかですが、福山市はやはり東の横綱じゃないですか、広島県の中のね。西の横綱、東西でいうと本当は東の方が強いのかな。福山の方が少し小さいですが東の横綱で、広島県だけではなくて、岡山県の東部も含めた備後地域と呼ばれるところの核ですよ。

福山市というのは、すごくユニークな会社がいっぱいあるんですよ。これはいろいろな理由もあるのですが、JFE があって、JFE につながる会社もたくさんあるんですが、自分でこう世の中、世界を切り開いているような会社がたくさんあって、世界に出ている会社もたくさんあって、そんなに大きくなくても。そういう意味でとってもユニークなところなんですよ。

だからそのユニークさをどんどん伸ばしてほしいなと思うし、高校生の皆さんも地元 of そのような企業だとかよく知ってもらって、実は大きなチャンスがここにあるということを知って、そこに飛び込んでいってほしいなと思います。

岡 : ありがとうございます。頑張って飛び込みます。

司 会 : 岡さん全部 1 回、拾ってくれますね。  
逆にタクールさんに聞いてみたいのが、いろいろな教育のこととか学校のこと真剣に考えて、こういう形の発表をやったり、いろいろと学校の中で試行錯誤したり、この福

山商業の学校のカリキュラムとか、こういった学びの姿とか何が感じたところどうですか。

タ ク ール： そうですね。自分、実はN高に入ってまだ数日なんです。10月に入ったばかりで、その前にいた学校でも結構似たようなことはしていたり、親近感がわいたのですが、そのしんどさとかも結構分かっていたり、楽しさも分かっているんで、楽しいですが苦勞する面も多いですね。考えたりいろいろと企画をしたりとか、だけどやはり学ぶことはたくさんあるし、自分のためにはなるのでいいですね。

岡 田 会： ありがとうございます。

愛 司 甲： ありがとうございます。

司 会： 分かったのは、相づちは必要ですが、打たれすぎるとしゃべりにくくなるという。ありがとうございます。すてきな時間でした。

タ ク ール： ありがとうございます。

司 会： 今回、第5回ということで、STUの峯吉愛梨沙さんにも発表してもらいます。出づらいいですね、まさかの。

峯 吉： まさかのこの後です。

司 会： この後なんですよ。

峯 吉： 頑張ります。1回、福商に通いたいなと思いました。コミュニケーション能力学ぶために。

司 会： もしくは発表で、どちらかが助っ人でどうですか。1人でいいですということで。

それでは峯吉さんも、広島県いろいろと考えてもらって、今日発表と意見交換の題材ということでお願いします。

#### 参加者④

峯 吉： STU48の峯吉愛梨沙です。

私はファッションに興味があって、アイドルになってからも、ファッションのお仕事させていただいているので、広島をもっとファッション文化の盛んな町にというテーマで考えてきました。

こちらが私のプロデュースしたお洋服ですが、現在発売中で良かったら私のSNSからぜひチェックしてください。

東京でいうと原宿のような、ここがファッションの聖地だという場所が広島にもあったらいいと思うし、もっと広島県として取り組んでいくことで他の県の方にも、海外の方にも興味を持っていただけるんじゃないかと思っています。

例えば宮島におしゃれなスポットがあったり、原爆ドームの近くには、思わず写真を撮りたくなるようなカフェがあったり、平和や歴史を学んだあとには、ちょっと楽しめる、映えスポットがありますなど、歴史のある今のイメージを大切に守りながら、もっとたくさんの方に興味を持って、広島に来たいなと思ってもらえる入口になったらいいなと思っています。

そしてSTUと県がコラボして観光名所ごとにSTUおすすめ、映えスポットを設置するのはいかがでしょうか。私たちもSNSなどで拡散することで、広島に遊びに来る人たちが調べるときに、見つけてもらいやすくなるんじゃないかなと思うし、私とこの年代のみんなにも海外の方にも、興味を持ってもらえたらうれしいなと思います。

そして最後に広島ファッションウィークのように、本通りにランウェイを作って、たくさんの方が参加できて、ファッションで広島を盛り上げるイベントをもっと行いたいなと思っています。フラワーフェスティバルのパレードがランウェイになったり、とうかさなどで、みんなが浴衣を来てランウェイをしたり、今までの文化も残しつつ、ちょっと変わったことができたなら面白のではないかなと思います。

また広島にまだないファッションブランドの誘致や、地元の若者たちがもっとファッションを発信できる環境があったらいいなと思うのですが、知事はどう思いますか。

司 会： 途中で1個挟んできたわけですね。知事どう思いますかと。

湯 崎 知 事： 今聞いていて思ったのですが、先ほどのSTU48と映えみたいな、事務所と御相談させてくださいというお話なんです。大体、観光とかそういうのは、おじさんとかおばさんっていうと怒られるけど、やっているじゃないですか我々県庁でね。もっと若い子の感覚を取り入れるというのは、すごく大事なことだなと、今思いましたね。やはり見つける視点が違うし、こっちのほうがかわいいとかいって、やはり歳を取った人たちが、

一生懸命考えても意外となかなか盛り上がらなかつたりするんだけど。

司 会： ちょうちんとかタペストリーとか、なかなかあの呪縛から離れられませんから。

湯崎知事： 若い人のってすごく広がったりするでしょう。それはいい感じだなと思いましたね。あとランウェイを例えばフラワーフェスティバルで作るとか、今度どうですかフードフェスティバルもあります。

司 会： みんなで、ぐるぐる主催者のところで回しているみたい。どうですか福山商業で。

湯崎知事： 本当にみんなが集まるところで、ファッションを楽しむというのもいい。面白い。

司 会： 確かにランウェイの発想はなかったですね。

湯崎知事： あまりないですよ。

司 会： 我々の世代でいうと。

湯崎知事： 本当のランウェイやっていますけど。為末さんに来てもらって、本当に走るやつはやっていますが。こういうファッションとかね、いいですよ。

司 会： こういうのを聞くと、こっちがどんどん引出しが増えますね。いままでなかったことなので。

湯崎知事： やはり多様性ですよ。若さの力。

司 会： 若さの力。皆さんいい提案、ありがとうございます。

まだあるんですよ。

峯 吉： もう一つありまして、アイドル、文化とまちづくりについてもお話をさせてもらいたくて、広島には、まだまだアイドル文化が根付いていないなという気がします。例えばアイドルフェスの開催とか、グッズがたくさん並んでいる専門のショップが少ないのかなと思います。

私は広島県出身で、小さい頃からスクールに通って、STU48 に入って今ではたくさん歌番組に出演できたり、普通に過ごしていたらできないような経験をたくさんさせてもらったりして、小さい頃から夢を持って生まれ育った広島で叶えられているなと思います。

それなので、もっとアイドルになりたい子が東京の都会だけでなく、地元の地方で夢をかなえられる環境があったらいいなと思います。そしてみんながアイドルになったことをきっかけに、広島出身だと誇りに思ってもらえたらいいなと思います。

私たち STU48 は瀬戸内のアイドルとして、広島県を拠点に活動をしているので、今最新のシングルで、平和について考えるきっかけになれる曲を届けています。若い世代の皆さんにアイドル文化だけではなく、平和について考えてもらえるきっかけがあったらうれしいです。

この写真は最新シングルの「花は誰のもの？」という曲のミュージックビデオの写真になっていて、30分のドラマミュージックビデオになっているのですが、コロナ禍でどんどん生活が変わっていく高校生活の様子が描かれているので、みんなにも共感してもらえるところがあるんじゃないかなと思うので、ぜひ見てもらいたいです。

そして世界に向けて「花は誰のもの？」のダンスリリックビデオというのも制作しました。いろいろな国の方に歌詞を理解していただけるように、海外字幕対応にして STU48 としても、今までとは違った新しいことに挑戦しています。

しかし、まだまだ STU48 の存在を知っていただけていないのかなと思うときがあります。それなのでもっと気軽に STU48 に会いに来てもらえるように、広島県に STU48 専用の劇場が欲しいです。近くには STU のカフェを作ったり、そこでしか買えない限定の映えるグッズを販売したり、ライブがあるときはもちろんなのですが、ライブがないときでも高校生のみんなが気軽にグッズを買いに来られたり、カフェに立ち寄って写真を撮って楽しめるような場所があったらなと思います。

私と同年代ぐらいの若い世代のみんなにも、もっと STU48 のことを知って好きになってもらいたいですし、SNS で拡散してもらえることによって、いずれは広島だけではなく、全国の皆さんが立ち寄ってくれる活気のある場所になればいいと思うのですが、知事は地方の町とアイドルとどう思いますか。

司 会： 知事いかがでしょうか。劇場はさておきまして、劇場以外の部分の答弁をよろしくお願いたします。

湯崎知事： 劇場をおいておく必要もないのですが、というか船が残念だったよね。

峯 吉： そうなんですよ、船で7県を回って公演とかしていたのですが、今はいったん船がなくなっていて、自分たちの足で行っています。

湯崎知事： だから劇場がなくなっちゃたんですよ。

従来は博多とか名古屋とか特定の1箇所なんですけど、STUの場合には瀬戸内だから、いろいろとぐるぐる回るところで、せっかく船があったんだけど、なくなって本当に残念ですが。

まさに映えるとかアイドルの楽しさとか、活気みたいなのが町の中に取り込めると、とてもいいですよ。

おしゃれだとか何だとかというところ確かに広島足りないですよ。もうちょっと何かこう、少しずつ今増えてきたかなという感じもするのですが、すごく凝ったものとか、こだわったものとか結構多いし、ファッションもどちらかというところ、最近若い子のファッションのお店もちょっと増えてはいますが、すごく高いセレクトショップとかというのがいっぱいあって、福山もそうですけど。もう少しいろいろな層が楽しめる、おしゃれなものがあるといいなと思います。

司 会： でも思ったのがこうやって話を聞いていると、人気があるからアイドルとか、かわいいアイドルみたいとか、歌うまいからアイドルだけじゃなくて、本当に文化として、知事が冒頭に言われた地域の誇りというところにつながってくると思うのですが、文化というところで、考えたことあまりなかったのですが、新たな文化として、我々も考えていかなくてはいけない時期がきているかもしれませんね。

湯崎知事： そうですね。このアイドル文化というか、それこそAKB始まってからもう何年になるんですかね。

司 会： もう10年以上ですか。

湯崎知事： いやいや10年どころではないよね。

峯 吉： 15年とか。

湯崎知事： ぐらになってきているし、世界でもBTSをはじめとして、アイドルが認知されてきたという感じがあるので、これはしっかりと文化なんだと思います。大人がちょっと十分に認知していないということかもしれないですが。

司 会： 我々も10分聞くと、ああそういうことかと思ったので、もっと伝わるようになっていけばいいなというふうに思いました。

湯崎知事： そうですね。先ほどフラワーフェスティバルとかありましたが、従来からあるメインストリームのなところ、もっともっと一緒にやっていってもいいんじゃないかという気がしましたね。

司 会： そうですね。ある種、従来ある枠組みの中に出てくるのではなくて、従来ある枠組みを変えるような存在になってくれるのではないかなと思います。

湯崎知事： そうですね。

司 会： すみません何か二人でだんだん、まだまだこうなれるこうなれるとか、それぐらい文化ってポテンシャルあるんだなと思ってしまいました。

峯吉さんありがとうございました。

峯 吉： ありがとうございました。

司 会： さて皆さんいろいろと話していただきましたが、代表して総合技術の天野さん、みんなの話を聞いて今日はどうだったですか。

天 野： 僕、ちょっと面白いなと思ったのは、福山商業高校の発表が面白いなと思って、工業で僕が生きていく上で、やはり理論付けされた行動であったり、活動というものがすごく大事だと思っているので、発表していただいた、ビジネス探求とか課題研究という一連の流れで、スキルが身につけられるカリキュラムというのは、すごくいいなと思いました。

N高等学校のタクールさんの発表では英語、外国語についての話だったのですが、自分は工業高校に通っていて、英語とか一般科目の学習等もやるのですが、やはり工業とかのカリキュラムに入ってくると、そっちの勉強が手薄になってしまったりということもあって、第三外国語というか、ちょっとハードルが高いなどは、手を出すのはちょっと難しいなとは思っているのですが、最近言語を学ぶことの重要さというものを結構感じてきて、取り組むべきことだとは感じました。

STU48の峯吉さんの発表は、ちょっとインスタ映えだとかファッションだとか、自分となじみのない世界の発表だったので、どう反応したらいいんだろうと思うのですが、自分自身もアイドル文化でなくても、趣味とかあるし、そういうもので何か盛り上がるべきだな。自分の趣味が盛り上がってくれたらうれしいなと思うし、それを望んでいる人がいるんだとしたら、それを拡大していくのはいいなとは感じました。

司 会： 全てまとめてくれて、ありがとうございました。見事な総括でした。



途中、配信の音が途切れた時間帯がありました。本当に申し訳ございません。

なお今日の模様を含めてこの取組、11月26日のRCCテレビ「E-タウンスポーツ」湯崎知事と語ってみた総集編ということで、湯崎知事生出演で、他の学校の皆さんの頑張りとかもお伝えしますので、ぜひ御覧いただきたいと思います。

それではまとめは天野さんがやってくれましたので、湯崎知事、最後に高校生の皆さんに、これから頑張って広島を盛り上げてくれると思います。一言エールをお願いします。

湯崎知事：今日は最終回で、とても皆さん盛り上げてくれてよかったなと思います。

なんとなく大人から見ると高校生って頼りないなとか、今どきの高校生ってどうなのみたいな、そういう話になりがちですが、こんなにいろいろなことを考えていて、頑張っていて、その中でもいろいろと悩みながら進んでいるというのは、本当に頼もしく思いました。

天野くんも素晴らしいプレゼンをしてくれて、工業だとか技術というのは答えがあるじゃないですかある意味でいうと。計算したら出てくる正解みたいなものもあるのですが、やはりアイドルのような正解も答えもないみたいな、そういうものもとても大事だと思うので、みんながこういう、いろいろとそれぞれの棒を持っている強みというか、それを合わせていくと本当にいい広島県ができるなと思いますよね。

司会：湯崎知事、5回にわたってどうもありがとうございました。

湯崎知事：ありがとうございました。

## 閉会

司会：以上を持ちまして、「第5回 湯崎知事と語ってみた」supported by 田宮パーツ終了です。

ありがとうございました。